

**(関西・中部地区) 第151回 昼食・講演会**

講師：堀 敦夫氏 JFEホールディングス(株) 理事 財務部長

演 題：「世界主要国の鉄鋼業の動向」

平成30年4月9日(月)、ホテルグランヴィア大阪21階「楓の間」において定例の「運営委員会」「会員懇談会」に引き続いて、昼食・講演会を開催した。

講師はJFEホールディングス(株)財務部長の理事堀敦夫氏にお願いし、世界主要国の鉄鋼業の動向について講演していただいた。

折しも米トランプ政権が、3月に鉄鋼やアルミの輸入制限を発動した直後でもあり、鉄鋼マンとしては関心の深い時宜を得たテーマであった。



講演内容は世界鉄鋼市場について、豊富な資料に基づいて世界地域別に需要・供給の変遷と今日の実態の説明があり、最後に今後の動向に話が及び、質疑応答も大いに盛り上がった。

講演の詳細な内容は省くとして、印象に残った点を概括してみると

**① 急拡大した世界鉄鋼需要**

現在(2016年現在)の世界全体の需要は16億ト余り。2003年頃から新興国ブームが始まり、とりわけ中国における爆発的な需要拡大により約2倍となった。世界需要の半分を占める中国も2013年がピークで、その後設備の余剰が顕著となり、目下過剰設備の廃棄を進めている。依然需給ギャップがあり、この対策が大きな課題である。

**② 世界の鉄鋼メーカー**

現在の世界トップはアルセロールミタルで粗鋼生産量は9,545万ト。世界的に統合再編が進み1社当たりの生産規模が拡大している。また中国の爆発的な生産拡大の結果、世界トップ10社のうち5社は中国企業と

なっている。日本のメーカーは新日鉄住金4位(4,616万ト)、JFEスチール8位(3,029万ト)である。

**③ 地域別の特徴をみると****\*欧州(EU)**

全体では需要は2億トン規模の横這いで推移している。ドイツは4千万ト、イタリアは2千万ト強の横這い。イギリスは大きく衰退(現在1千万ト割れ)。

国によって異なるが、早くから鉄鋼市場は成熟し、メーカーは収益低下を余儀なくさせられた結果、政府主導で設備削減や再編が行われてきた。基本的に国単位で各国の需要と供給はバランスしており、製造業が残っている国は鉄鋼業も残存している。

**\*米国**

国内の需要は1億1千万ト規模、粗鋼生産は8千万ト。1950年代圧倒的優位性を誇ったアメリカの高炉メーカーは、技術戦略の軽視、設備投資不足、労働問題、原料等のコスト高が重なり、競争力が失われた結果、経営が行き詰まり再編が進んだ。高炉メーカーの地位は低下し、輸入鋼材や電炉製品にシェアを奪われる事態となっている。電炉メーカーは柔軟な経営で競争力を維持、成長を続けている。

**\*アセアン・日本**

アセアンは着実に鉄鋼需要が拡大している(2千万ト)。しかし、高炉建設が難しく鋼材は他地区からの輸入に依存せざるを得ない状況である。

日本の鋼材需要は現在6千万ト。減少傾向を辿っているもののアセアンの需要増加に支えられ、粗鋼生産量1億トは安定推移している。

構造的に上工程は日本メーカー、下工程はアセアン現地ミルと言う国際分業関係が進んでいると云えよう。

(増田 光一・記)

